

牛白血病の発生が増えています —現状と対策—

牛白血病は、白血球（リンパ球）の増加やリンパ腫を特徴とするいわゆる「牛の血液のガン」で、家畜伝染病予防法の届出伝染病に指定されています。

牛白血病の多くは、牛白血病ウイルスが原因であり、治療方法はありません。
しかし、“ウイルスからの感染を防ぐ対策はあります”。

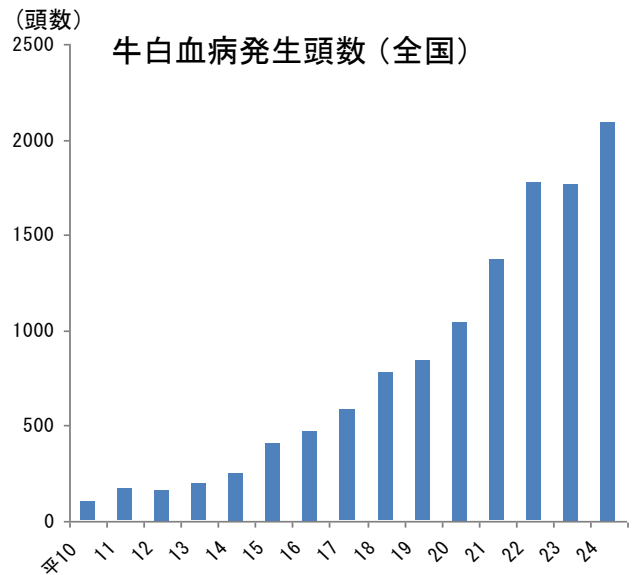
牛白血病の発生は近年、増加の一途をたどっています。

全国の発生報告数は、平成10年では100頭にも満たなかったのに対し、平成24年には20倍以上の2,090頭にもなっています（右のグラフ参照）。

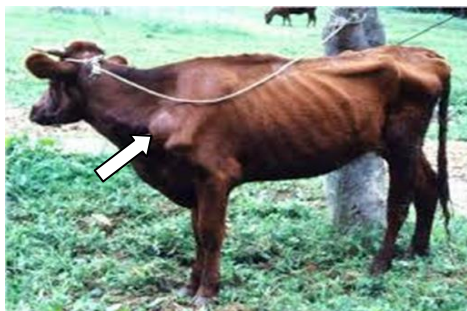
静岡県での発生報告数も、平成17年には3頭であったのに対し、平成25年（11月時点）においては24頭であり、増加傾向にあります。

牛白血病ウイルスに感染した牛の全てが発症するわけではなく、60%~70%の牛は無症状で経過し、約30%の牛はリンパ球が増加しますが外見では異常はみられません。感染牛の数%が長い潜伏期間を経て、牛白血病を発症します。

発症した牛は痩せ、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢、便秘などの他、体表のリンパ節の腫れなどが見られます。発症牛は徐々に衰弱していきませんが、治療方法はありません。



（農林水産省：家畜伝染病発生年報）



痩せた牛、浅頸リンパ節の腫大が見られる（矢印）。

日本農業新聞 e 農 net (2011. 9. 21) より転載



腸骨下リンパ節の腫大が見られる（矢印）。

農研機構動物衛生研究所 Web サイト より転載

◇牛白血病ウイルスの感染経路◇

ウイルスはリンパ球に感染し、血液や乳汁を介して牛から牛へ感染します。感染経路は注射器、直腸検査用手袋、除角器具等の使い回しや、アブなどの吸血昆虫、子牛に感染牛の乳汁を給与することなどです。特に牛白血病発症牛やリンパ球が増加している牛は他の牛へ感染する危険性が高くなります。

◇牛白血病対策のポイント◇

① 定期的に全頭検査を実施し、感染牛は計画的に更新する！

- ・牛白血病ウイルスに感染した牛を農場へ入れない、または排除するため、導入牛や子牛（生後6ヶ月齢以上）についても随時検査を実施する。

② 子牛を感染から守る！

- ・感染牛の乳は感染源になるので与えない。プール初乳や子牛が他の母牛と接触できる環境では感染の可能性が高くなる。
- ・陰性が確認されていない牛の初乳を使う場合は60℃で30分間、加熱した初乳、または一旦冷凍した初乳を給与する。
- ・母牛が感染牛である場合、子牛は直ちに感染母牛から分離して育てることが望ましい。

③ 吸血昆虫による感染の拡大を食い止める！

- ・感染牛と非感染牛はできるだけ隔離して飼育する。
- ・殺虫剤や昆虫成長抑制剤（IGR 剤）を散布する。
- ・防虫ネットを設置する。

④ 注射針や直腸検査用手袋の使い回しは絶対にしない！

- ・血液が付着した除角器や耳標装着器、削蹄器具は1回ごとに洗浄・消毒する。
- ・直腸検査用手袋についても、明らかな出血がなくとも微量な出血をしている場合があるため、1頭ごとに交換する。

※ 牛白血病の発症牛はと畜場で全廃棄されます。これは健康な家畜に由来する肉を食用に供するという考え方によるものです。

※ 牛白血病がヒトに感染するといった報告はありません。

*** 詳しくは最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。**

◎静岡県東部家畜保健衛生所（田方郡函南町仁田 101 電話 055-978-3131 FAX 055-978-9642）

◎静岡県中部家畜保健衛生所（島田市野田1120-1 電話 0547-37-1158 FAX 0547-37-1163）

◎静岡県西部家畜保健衛生所（浜松市東区中郡町 392 電話 053-434-2921 FAX 053-434-2923）